

都筑区洪水ハザードマップ

洪水浸水想定区域(想定最大規模※)

鶴見川水系河川：鶴見川、早淵川、大熊川

この洪水ハザードマップは、鶴見川水系等の河川の氾濫が予想される場合や実際に氾濫した場合に、浸水が想定される区域の皆さんに速やかに避難していただくために作成したものです。

※想定最大規模とは「想定し得る最大規模の降雨」による氾濫を前提として予測したものです。



1 : 17,500

500m 0m 500m 1500m

洪水浸水想定区域(想定最大規模)はどうやって決めたの？

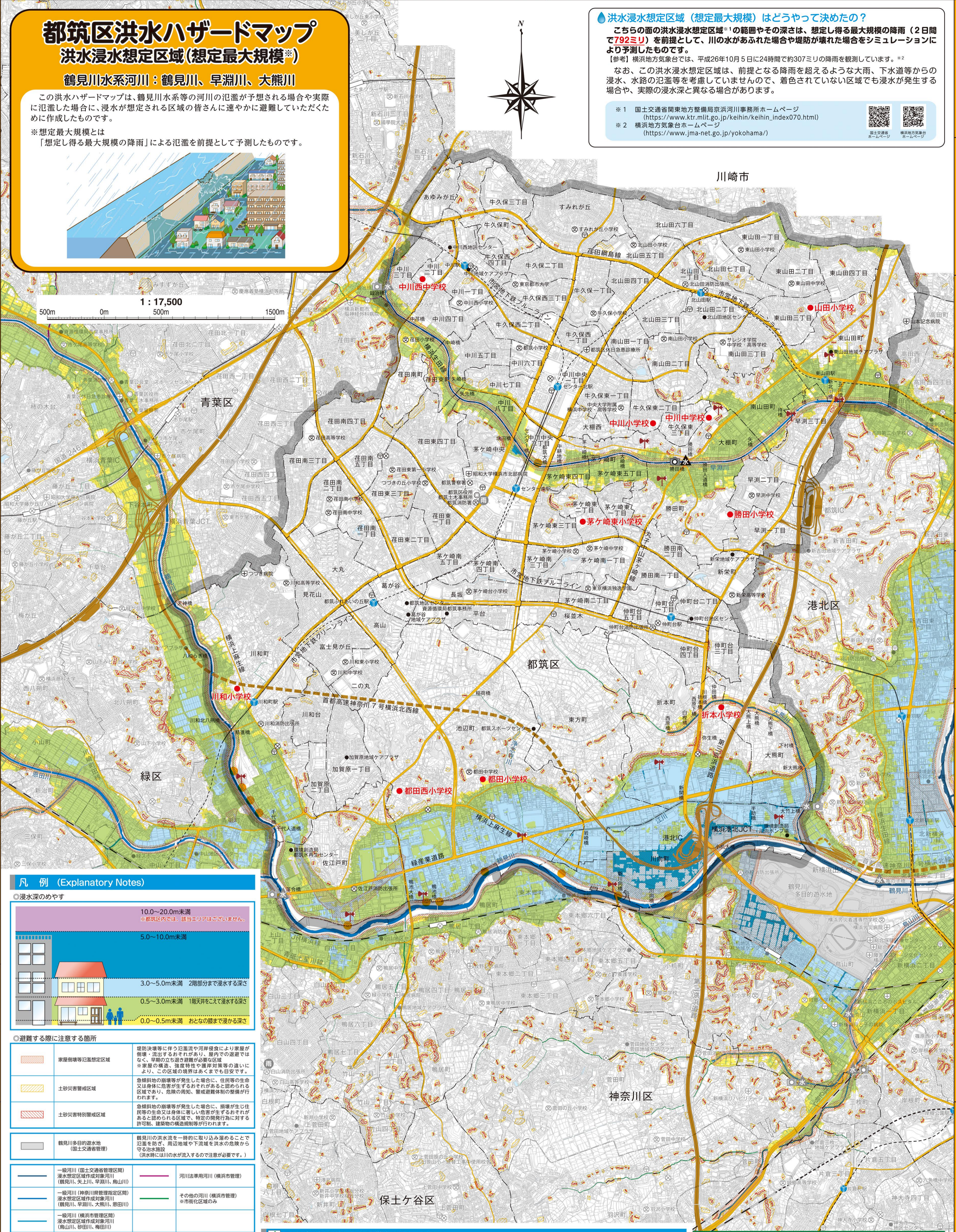
こちらの面の洪水浸水想定区域※1の範囲やその深さは、想定し得る最大規模の降雨(2日間で792mm)を前提として、川の水があふれた場合や堤防が壊れた場合をシミュレーションにより予測したものです。

【参考】横浜地方気象台では、平成26年10月5日に24時間で約307mmの降雨を観測しています。※2

なお、この洪水浸水想定区域は、前提となる降雨を超えるような大雨、下水道等からの浸水、水路の氾濫等を考慮していませんので、着色されていない区域でも浸水が発生する場合や、実際の浸水深と異なる場合があります。

※1 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所ホームページ
(https://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin_index070.html)

※2 横浜地方気象台ホームページ
(<https://www.jma-net.go.jp/yokohama/>)



凡例 (Explanatory Notes)

◎浸水深のめやす

10.0~20.0m未満	※都筑区内では、該当エリアはございません。
5.0~10.0m未満	
3.0~5.0m未満	2階部分まで浸水する深さ
0.5~3.0m未満	1階天井をこえて浸水する深さ
0.0~0.5m未満	おとなの膝まで浸る深さ

◎避難する際に注意する箇所

家屋倒壊等氾濫想定区域	堤防決壊等に伴う氾濫や河岸侵食により家屋が倒壊・流出するおそれがあり、屋内での避難ではなく、早期の立ち退き避難が必要な区域。※家屋の構造、強度特性や崖岸対策等の違いにより、この区域の境界はあくまでも目安です。
土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがある区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。
土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがある区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。
鶴見川多目的遊水地	鶴見川の洪水を一時的に取り込み滞ることによって氾濫を防ぎ、周辺地域や下流域を洪水の危険から守る治水施設(洪水時には川の水が流入するので注意が必要です。)

一級河川(国土交通省管理区域) 浸水想定区域作成対象河川(鶴見川、天上川、早淵川、大熊川)	河川法適用河川(横浜市管理)
一級河川(神奈川県管理指定区域) 浸水想定区域作成対象河川(鶴見川、早淵川、大熊川、恩田川)	その他の河川(横浜市管理) ※市街化区域のみ
一級河川(横浜市管理区域) 浸水想定区域作成対象河川(鶴見川、早淵川、大熊川、恩田川)	

風水害時における避難場所について

◇災害時には、下記の避難場所以外に、地区センター、地域ケアプラザ等の公共施設、自治会町内会館を避難場所として開設する場合がありますので、避難の際は、必ず、市・区のホームページやテレビ(データ放送)等で開設されている避難場所をご確認ください。

◇2か所以上の避難場所へ避難できるよう、自分自身であらかじめ複数の避難経路を確認しておきましょう。

◇すでに浸水が始まっている場合などには無理に避難場所へ移動せず、浸水していない近くの高いところに避難してください。

なお、都筑区では避難場所として、下記に示した施設を優先して開設します。

条件等	避難場所
土砂災害警戒情報が発表された場合の避難場所	勝田小学校、都田小学校
洪水時等の避難場所	折本小学校、都田小学校、都田西小学校、川和小学校、山田小学校、中川中学校、中川小学校、中川西中学校、茅ヶ崎東小学校、勝田小学校

想定条件

鶴見川水系：2日間で792mmの降雨

出典データ	
背景図	横浜市地形図複製承認番号 令3建都計第 9024 号 横浜市建築局都市計画基本図データ (地図レベル2500) により作成
河川	横浜市道路局 河川図
浸水想定区域	鶴見川水系浸水想定区域図
土砂災害警戒区域	横浜市建築局 土砂災害警戒区域 (令和4年2月現在)
土砂災害特別警戒区域	横浜市建築局 土砂災害特別警戒区域 (令和4年2月現在)